ジョージ

G・アダムスキー通信

＜第３６号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

人間は、「喜怒哀楽」があるから、人生を楽しく愉快に生きられるのだと思っています。確かに、喜・怒・哀・楽それぞれの感情に従うのが地球人の生き方なのです。しかし、これこそエゴによる生き方の肯定なのです。喜怒哀楽とは、正に心（エゴ）による反応だからです。

楽しければよいではないか？　という言葉も、エゴを助長しています。地球人の楽しいとは、エゴによる部分が大半だからです。

人間は、あまりにも心の楽しむことを求めすぎます。その結果、喜怒哀楽というように哀しみも味わうこととなるのです。しかし、新約聖書では、イエスでさえ喜怒哀楽に影響されていたことが読み取れます。いかに地球が、喜怒哀楽に支配されているかがわかるというものです。

土星母船の指導者は、地球人について「心は混乱して分裂・・・まだ平和を知りませんし真の美を見ていません。」と語っています。ここから類推すると、地球人は、真の喜びも楽しみも知らないと解釈できます。そして、真の美をはじめ真の喜び、真の怒り、真の哀しみ、真の楽しみがあるということも推測されます。

喜怒哀楽というのは、人間の心の反応であり、これを否定することは人間を否定することと思われますが、確かに喜怒哀楽に依存しない生き方は地球人を超えるのかもしれません。

友好的なＳＰは、喜怒哀楽を超えています。彼らのそれは、意識の写し絵であり単に心の求めるものではなく、意識的表現としての喜怒哀楽で生きているようです。これが、“真の美”等に繋がるものだと思われます。

“意識的表現としての喜怒哀楽”。これは、心の喜怒哀楽とは完全に異なりますが、これに相当するものが意識に存在するということです。人間は、“宇宙の意識”という部分と“心”という部分の両方に乗っかった存在で、その比率は、大部分が心という部分にあります。本来は、意識から感じたものを心が表現するのですが、現在は主従が逆転しているのです。「生命の科学」でいう心を意識に任せるとは、結果として喜怒哀楽を超えることを意味しているようです。

“言葉に注目”

＜人間はまだ地獄に落ちた魂として生きています＝救われざる者＞

by　アダムスキー著『第２惑星からの地球訪問者』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが土星の大母船に乗船した際、指導者から語られたものです。人間は、地球での生活を始めるにあたって、生き方を学んでいればよかったのに、そのレッスンに失敗したと言っています。そして、地球上の存在の調和を破壊し、隣人に対して敵意を持って生活し、心は混乱し分裂したという事実から、人間は地獄に落ちた魂ということです。

そして、こんな暗黒の中に住んでいる人間とは誰なのかと疑問を投げかけます。指導者は、「それは〝不滅なる者〟に奉仕しなかった救われざる者！」と語っています。更に、人間は、道について語りながら、行くべき道を探し求めようとはしない。魂の飢えを否定するのも人間等々、手厳しいながらも地球人への愛情を感じさせる言葉が続きます。

この地球を見わたせば、指導者の話が事実であるばかりか深遠な哲学であることがわかります。少なくとも私たちは、救われざる者ではなく救われる者として生きたいと思います。

「生命の科学」学習のポイントPart３６

今回は、レクチャー３ 宇宙の法則の応用、第２回目“エゴの心を訓練すること”という部分。

前段に「人間が完全な表現の道具となれば、自由意志を持ってその法則の正しい、または誤った応用法を知るでしょう。これが人間の存在の目的なのです。」と書いています。

つまり、人間の目的は、自由意志によって宇宙の法則の応用法を知ることだということです。

そして、心の意志と意識の意志を区別して、人間は、意識の意志（＝神の意志）に従わなければならないと記しています。「そうすれば、〝神の意志〟が行われるのです。」と。

心の意志と意識の意志の違いは、前者が攻撃的、自己中心的、生活のすべてを恐怖し、多くの過失を犯すのに対し、意識の意志は、親切で豊かで美しく恐怖を知らない点にあります。客観的には、意識の意志が良いに決まっていても、自己である当事者は心の意志であり、常にその立場で考え行動してしまうのが人間（地球人）なのです。

しかし、万物は、〝宇宙の法則〟の意志によって働いています。人間だけが、自由意志によってそれに反して生きていると書いています。

神の意志は常に完全な調和を表現しているのに、人間は自由意志によって肉体を濫用しています。そして、「神の意志は人間のゆがめられた意志に自分を貸しません。」として、その結果、苦痛をという代償により学びを得ると書いています。

幸いなことに、人間の肉体には、エゴとは別な調和の法則が働いているので、人間は、多年生きることができるというわけです。毎度のことですが、今回も地球人にとって大変重要です。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編３６＞

“ 人間万事塞翁が馬 ”　昔、中国の北方の砦（塞）の近くで、一人の老人と息子が暮らしていました。ある日、老人の馬が逃げだし隣人たちは気の毒がりました。しかし、老人は泰然としています。その後、逃げた馬が立派な馬を連れて戻りますが、老人は泰然としています。今度は、息子が馬から落ちて怪我けがをしますが、老人は泰然としています。戦争が起こり、息子は怪我で戦争に行かずにすみました。そこで、人々は一喜一憂しないことを学んだのです。

Q&A

※ここでは、よくある質問等をQ＆Aとして書いたものです。

Q：宇宙時代は来るのですか？

A：アダムスキーは、金星母船で「宇宙時代」について会話をしています。ＳＰは、“宇宙的な理解”と呼びたいということですが、地球は宇宙時代に近づきつつあるということです。地球人が、地球以外の人間の住む可能性について広い意味で気づいたのは今回が初めてだからです。現在は、米国やロシアを先頭に宇宙開発が進められていますので、ここに「生命の科学」の理解が加われば、真の宇宙時代に突入することでしょう。

書物紹介

『 原子転換というヒント 』　久 司 道 夫　著　　三五館

著者は、「簡素で自然な生食を実践して健康と長寿を獲得する」マクロビオティックの権威です。本書では、ある元素が他の元素に変わる夢のような原子転換について書いています。例えば、炭素が鉄に変わる、水銀が金に変わるということです。これは、現在の科学では、あり得ないこととされていますが、炭素が鉄に変わる実験等を行い検証しているということです。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆東京開催☆平成２４年１１月２３日（祝）、平成２５年１月１２日（土）、３月１０日（日）、５月１２日（日）、７月１３日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

アダムスキーの教えの確かさを理解するには、様々な知識も必要です。本紙では、そのために地球的な知恵も掲載しています。

ＵＲＬ： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第３６号＞

発 行 日　平成２４年１０月１０日

編集発行　国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）

ジョージ
G・アダムスキー通信

＜第３７号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

人間は、“自由”という言葉に弱いようです。自由こそは、人間のあらゆる可能性を保証するものとして守られ、また、他人の自由も損なわないことが大切なこととなっています。

しかし、自由と言っても何にも制約がないわけではありません。各国には、それぞれの法律において、犯してはならない様々な事柄が規制されています。法治国家として、当然なことですが、法なければ集団生活などできないことでしょう。

この地球における“自由”は、宇宙的に見てどうなのでしょうか？　どうやら、人々が語る自由には、大きく３つのパターンがあるようです。

１つは、まったくの自由のことで、これはエゴの赴くままの行動を意味しているようです。

２つには、宇宙の意識に従うことを意味するものです。

３つには、１つ目と２つ目を混ぜ合わせたものです。

補足しますと、１つ目の自由というのは、宇宙の意識と対立することで生まれたエゴによる行動を意味しています。地球上においては、この自由による行動がほとんどだと思われます。

２つ目は、あまりピンとこないかと思われますが、宇宙の意識に従うことが自由なのだという考えです。エゴを拘束させないことが自由だという考えからすれば、当然に違和感がありますが、それは真の自由ということを知らないだけのことです。宇宙の意識に従うことこそが、総ての拘束から解放され、細胞が生き生きと活動し、あらゆる可能性が見えてくるのです。宇宙の意識が、これあれかしと願う方向に活動することが、流れに従うことであり体内にエネルギーが注がれ、人間にとって最も楽な生き方となるのです。

アダムスキーは、「完全な自由があれば積極性が盛んに出てくる・・・。」と語っています。完全な自由とは、宇宙の意識に従うことで、それによって何事でも成し遂げようという積極性が盛んに出てくると言っているのです。少なくとも、アダムスキーを理解できる私たちは、このような自由を求め、真の自由の下に生きる人間となりたいものです。

“言葉に注目”

＜あなたがたは金星人として生きたいのか＞

by　アダムスキー著『 ＵＦＯの謎 』（中央アート出版社）

アダムスキーは、「この地獄のような地球から脱出して金星の平和と幸福のなかで生きてみたい」と大声で語っていた多くの人を忘れないと書いています。彼が、このような人々に不信感を持っていたことがわかります。そこで、アダムスキーが、そのような人々に尋ねたのが見出しの言葉です。その回答が、「別にそういうわけではない」と言ったということです。このことからアダムスキーは、「彼らは一、二の理由で、・・・同胞よりも自分が優位にあると感じることを好んでいる・・・。」と解釈しています。

そして、「しかし地球上の人類を分裂させているのはこの種の好き嫌いなのだ。」と書いています。だから、そのような人が、金星へつれて行かれたなら地球上よりひどい地獄のような苦しみを受けると言っています。私たちも、このような現実逃避をしていないか、再度、考え直してみる必要があるようです。

「生命の科学」学習のポイントPart３７

今回は、レクチャー３ 宇宙の法則の応用、第３回目“人間は反宇宙的になった”という部分。

前項を踏まえ、人体内には知性の二つの段階があると書いています。「一つは肉体の機能を指示する宇宙的なもの、他の一つは肉体的に苦痛を起こす心の対抗です。」と。ある牧師は、このことを「人間は反神的になってしまった。」と表現したということです。これについてアダムスキーは、人間は創造主の指導を求めず、生命の贈与者を信用していないので、これは真実だと認めています。その結果が、“恐怖”という主人のもとで極端に自由意志を行使していると語ります。この辺の解釈や表現は、さすがに素晴らしいものがあります。創造主（宇宙の意識）から離れることは、土台を失うことであり安心感を欠くことから、必然的に恐怖を持つこととなるのです。ここは、的を得た解釈であり根本的に重要なところです。

恐怖を持つようになるのは、自由意志の結果であるとしています。人間の意志が創造主を信用しなくなると他人を信用しなくなり、かろうじて信じられる自分自身以外は、何も信用できず、他人とのトラブルをはじめ、戦争などの大きな問題を引き起こすこととなります。

地球上で、何千年経っても平和とならず常に争っている理由が、ここで端的に示されているのです。つまり、創造主と離れることが、すべての悪の元凶なのです。このことは、論理的に考えれば、恐らく誰もが納得できることだと思われます。しかし、これが実践できないのが、地球人ということなのでしょう。これは、冒頭語にも書いている自由意志の使い方によって、天国と地獄のどちらの道へ通ずるかが決まるということなのです。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編３７＞

“ 晴耕雨読 ”　晴天の日には外にでて田畑を耕し、雨天の日には家で読書をするというように、職業に就かず、思いのままにのんびりと生活をするということです。最も自然な生き方として、退職後に憧れる生活の代名詞として使われるものです。確かに、戦争のような過激なビジネスマンには、人間性の復活のために必要な生活なのでしょう。

Q&A

Q：ＳＰの活動は停滞しているのですか？　※ここでは、よくある質問等をQ＆Aとして書いたものです。

Ａ：ＵＦＯや異星人に関する話題が少なくなると、このようなことを質問されます。これは、テレビ番組としての放映や、話題の新書として登場しないことから言われるものです。確かに、話題としては少ない状況です。しかし、彼らの活動は、アダムスキー時代に始まったことではなく、数万年あるいはそれ以前から行われていることですから、停滞しているように見えたとしても、簡単になくなるようなものではないと理解しておきましょう。

書物紹介

『 致　知 』　致知出版社

今回は、「致知（ちち）」という雑誌の紹介です。本書は、書店での販売ではなく、直接出版社へ申し込み月刊誌といて郵送されるものです。内容は、「巻頭の言葉」として、論語普及会学監・伊與田覺氏、ウシオ電機会長・牛尾治朗氏、アサヒビール名誉顧問・中條高徳氏の著名３氏がリレー式で掲載しています。論語、仏教、神道、歴史、人物伝等が主なもので、宗教的なものでもなく、学問として、あるは人間学として編集されています。http://www.chichi.co.jp

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆平成２５年１月１２日（土）、３月１０日（日）、５月１２日（日）、７月１３日（土）、９月１４日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

年末は何かと多忙ですね。それにしても、社会情勢は大きく変化しています。誰もが意図しない方向へ動くことさえあり得るのでは・・・。

ＵＲＬ： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第３７号＞

発 行 日　平成２５年１月１０日

編集発行　国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）

ジョージ
G・アダムスキー通信

＜第３８号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

現在の世界は、様々な点で末期症状、あるいは限界に近付いていると思われます。各国における貧富の格差の増大、強い者（金力を含む）が権力を握る社会構造、金儲けに知恵の多くを割いている現状、病魔と治療のイタチゴッコ、欲しいものは奪い取るという思想などなど、枚挙にいとまがありません。これらのことから、人類の意識レベルを計る必要があります。

資本主義であれ社会主義であれ、これらが主流の世界の中では、仙人のような生活でもしない限り、それらの影響を受けない方法はありません。しかし、これでは、スペース・ピープルの教えに反するでしょう。彼らは常に、大勢と同じ生活をしながら、周囲の人々に真実を悟らせるという手法をとっているからです。

グローバル化が当然とされる世界の中では、同じ土俵の中で競わなければならず、勤勉な国民も、そうでない国民も、常に苦しい試練にさらされています。こうした中にあって、日本人は、精神的な低下が見えるものの客観的に見て道徳性の高い善良な人々が多いと感じています。

これはあくまで推測ですが、日本人は、地球を良い方向へ向かわせるために、他の惑星から送られた種属ではないかと思われます。地球人の中にあって、共に歩みながら、周囲の人々に良い影響を与える種族が、地球上ではどうしても必要なのです。

「日本民族は偉大な〝財産〟を引き継いでいます（注：これは日本民族が土星人の子孫である・・・）。」（現：金星・土星探訪記）は、１９５７年４月５日付のアダムスキーから久保田八郎氏宛の書簡に、久保田氏がア氏から聞いたこととして注釈を加えたものです。これは、１９７５年頃までの全集に掲載されていました。日本には、天孫降臨思想もあります。また、アインシュタイン博士（別人説あり）は、「・・世界の文化は・・日本に立ち戻らねばならない。吾々は神に感謝する、吾々に日本という尊い国を、作って置いてくれたことを。」と記しています。

このように考えると、日本人の常識は世界の非常識どころか、本来の資質を残しながら（和して同せず）、良い影響を広めていくことが日本人の使命なのかもしれません。

“言葉に注目”

＜異星人が地球の科学者にこの最も重要な問題を認識する方法を伝えている･･･＞

by　アダムスキー著『 金星・土星探訪記 』（中央アート出版社）

アダムスキーは、「生命の科学」講座で伝えている事柄について、これを学びとれば病気は消滅し完全な人体の所有者になれるとし、「このキーが、現在生命を部分的にもマスターしつつある人々によって地球人に授けられたのは、これが人間の歴史で最初です。」と語ります。そして、〝私は、〟と頭に付け、表題のことを語ることで意味を強調しています。

「生命の科学」の内容については、人体の細胞は無数の分子からなる構成単位であり、その各分子は、他の分子に関して自分の活動の記憶を持っています。人体が無数の細胞を含んでいる事実から、人間に授けられた可能性を示唆しています。だからアダムスキーは、自己の内部の知識の宝庫に気づけというのです。そして、「細胞を構成している分子は意識的な実態であって、精神的な実態ではない・・・」と書くことで、宇宙の意識が人体の細胞として宿っている事実を伝え、人間は、その研究者であらねばならないと強調しているのです。

「生命の科学」学習のポイントPart３８

今回は、レクチャー３ 宇宙の法則の応用、第４回目“意識は恐怖を知らない”という部分。

アダムスキーは、イエスの「あなたがたは神の宮だ」と言ったことを引用し、これを言い換えて「あなたが生ける意識の具現化したものであることを知らないのか」と説明します。意識の具現化と言えば、宇宙に存在するすべての物が該当します。何も人間だけではありません。それをあえて言うのは、自己を自覚できる存在であるあなたが、神から遠いと感じている人間が、神の現れであると知らせることで、神と人間とが、常に一体であることを気づかせる意図があります。さらに、神の代理者として人間を創造したという意味も含まれているでしょう。

そこで、〝生命の呼吸〟はその証拠だと語り、その〝生命の息〟により生きる人体、魂、意識ある実態になると説明します。赤ん坊は、最初の呼吸をするとき、心は部分的にのみ働いているにもかかわらず、赤ん坊は意識的に生きていると書きます。これは、肉体は未熟であり、心は肉体に属することから未熟であるが、意識は完成したものとして生きているという意味です。この場合、肉体は恐怖を経験していませんので恐怖を知りません。そこで、「恐怖が心とともに働き始めて傷ついてから、恐怖という状態が起こってくるのです。」と書いています。このことから、意識は恐怖を知らないことを示し、その理由として、意識はあらゆる知識の所有者であるとしています。

アダムスキーは、これらの理由から、「あなたの内部に宿る永遠の神性すなわち創造主に気づくようになりなさい･･心が常に意識を信頼することを知る必要があります。」と結んでいます。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編３８＞

“ 述べて作らず、信じて古（いにしえ）を好む” **これは論語の一節です。この言葉の前に、「子の日（のたま）わく、」後段には、「竊（ひそか）に我が老彭（ろうほう）に比す。」が入ります。この意味は、古典に基づいて述べるが、自ら創作はしないということです。そして、老彭（老子とも言われる）と比べているというのです。ア氏の哲学もそのようにしたいものです。**

Q&A

Ｑ：アダムスキーを知らない若者が多いのでは？　※ここでは、よくある質問等をQ＆Aとして書いたものです。

Ａ：確かにその通りだと思います。さらに深刻なのは、これが世界的な傾向だということです。アダムスキーを否定したい勢力からすれば、功を奏したということでしょう。一方、肯定者は、常に非力な方向にやられています。著作権の問題もありますが、もっと、肯定者が工夫をして頑張る必要もあるでしょう。しかし、非力ながらホームページによる周知や小さな会合等を継続することで、情報として届くべき人には届いているとも考えられます。

書物紹介

『 大宇宙連合からの啓示 』 田村 珠芳（しゅほう）著　　徳間書店

なにやら怪しげな書物です。この種のタイトルの本は、紹介しないこととしていましたが、この本には、特定はしませんが、多くの真実が書かれているように思います。本書は、第１章「朝鮮半島情勢に異変が起こっています」、第２章「いよいよネオ満州国が動き出します」、第３章「日本崩壊の立役者が暗躍中です」、第４章「人類支配計画の最終章が始まります」、第５章「宇宙時代の幕開けが迫っています」となっています。ア氏から伝えられた情報に関連する内容もあります。真偽はいかに！

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆平成２５年３月１０日（日）、５月１２日（日）、７月１３日（土）、９月１４日（土）、１１月１６日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

世界情勢や自然災害など、気になる時代となりました。近々にということではないにしても、やはり何かが起こりそうに感じています。

ＵＲＬ： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第３８号＞

発 行 日　平成２５年３月１０日
編集発行　国際アダムスキー普及会
　　　　　栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1
発行責任　渡 邉 克 明
（禁無断転載）

ジョージ
G・アダムスキー通信

＜第３９号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、G・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒頭語

「日本人の国民性調査」（統計数理研究所）によると、あの世を信じる人の割合は１９５８年に２０％であったものが、２００８年には３８％と半世紀の間に２倍近くなったということです。特に、若い世代で信じる傾向が高くなっています。他国と比べ、高い数字だと思われます。

ここ２０年間を見ても、科学者や大学教授など知識人と言われる人々による、あの世を肯定する発言や書物の出版などが増えてきています。実際には、霊界を信じているものから、転生を信じるものまで様々な状況です。簡単に喜べないところもありますが、目に見える世界を絶対とする潮流の中で、目に見えない世界を重視しようとする傾向には期待したいところです。

特に、魂の存在を肯定し、転生を肯定する動きには面白いものがあります。「魂の伴侶」の著書で知られるブライアン・L・ワイス氏、「前世を記憶する子どもたち」のイアン・スティーヴンソン氏、「ツインソウル」の飯田史彦氏、「子どもは親を選んで生まれてくる」の池上明氏、「転生と地球」の高木善之氏、「人は生まれ変わる」の船井幸雄氏等々の著書には多くの真理が含まれています。

また、以前、『書物紹介』で掲載した「生命の正体は何か」の著者で知られる川田薫博士は、ラットが死ぬ瞬間の体重を測定し、千分の１から１万分の１の重さが解放されることを証明しました。これは、誰がやっても再現性があることから実証と言えるものです。

更に、今回の『書物紹介』で掲載した内容は、村上氏が魂の存在を肯定したうえで、天外伺朗氏の「現世であの世を感じるか、感じないかそれだけの違い・・」に触発されて、人間は、肉体という少し不自由さを伴って、時期が来ればもといた場所に帰るだけであると語っています。対談の中では、霊的な解釈も多いのですが、アダムスキーが伝えた、人間は、意識の世界から生まれ、意識の世界に帰るという解釈に通じるものがあります。

アダムスキーは、中間生（いわゆる霊界等）を否定していました。人間は、死んだらすぐ生まれ変わるということです。これには、理由があったのだと思われますが、いずれにせよ、人間は、死んだらそれで終わりではないという考えが広がることには歓迎したいと思います。

“言葉に注目”

＜万事に段階があるように完成にも段階がある・・・＞

by　アダムスキー著『 第２惑星からの地球訪問者 』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが金星の母船に乗船した際、偉大な指導者より言われたもので、「万事に達成の可能性があるとすれば、ずいぶん面白くない完成だろうな！」という地球人の声に対して説明した一節です。

指導者によれば、金星では皆幸福だけれども、停滞する者はいないということです。つまり、ある目標に到達したからといって、それから先のない完結にはならないということです。そこで、「丘の頂上に登ると下から見るときとちがってさらに別な丘が見えてくるのと同様に、常に進歩というものがあるのです。」と、完成にも段階があると説明しています。

そして、更に興味あることを語っています。「宇宙の法則に対する理解力は向上もするし停滞することもあります。」と、彼らでさえ、このようなことがあるというのです。私たち地球人は、言わずもがなということでしょうか。ゆっくり、着実に進歩することが肝要なようです。

「生命の科学」学習のポイントPart３９

今回は、レクチャー３ 宇宙の法則の応用、第５回目“意識による生活をすごすことに尽きる”という部分です。

アダムスキーは、読者に普通の生活をすることを禁じなかったと語り、「あなたにすすめたいのは、心による生活ではなくて『意識による生活をすごすこと』、これに尽きます。」と記しています。そもそも「生命の科学」を広める意義は、一言でいえば正にこのことを伝えるとこにあります。問題は、どうすればそれができるのかということなのです。

続けてアダムスキーは、あらゆる物事を適度に行うことを進めています。これこそ人生の目的を果たすのに必要だと言います。アダムスキーは、禁欲主義を進めず、行き過ぎは良くないが、様々なことを適度に行うことにより、天国のような生活を送れると語っているのです。

これは、法則の両面を使うことであるとしています。そして、「両面とは、客観と主観、陰と陽、女性と男性です。この一面のみを応用して他方を除外しながら好結果を期待することはできません。」と語り、その理由を丁寧に説明しています。これによれば、今はやりのプラス思考（ポジティブシンキング）も、片方だけの活用は良いことではなく、両方をうまく活用することが大切であると理解されます。ところが人間は、創造主と自分を分離しているので、「知的な巨人となったけれども意識的見解を持たぬ精神的低能・・・。」と記しています。

以上のことから、人間は、創造主という意識と自分という心の両面をうまく活用することで、宇宙の友のように全世界を貫いている神の生命を見ることができるようになるということです。

宇宙に“生きる”

<名言格言編３９>

“ 人はパンのみにて生くるにあらず” **これは「新約聖書」マタイ伝第四章に記されているキリストの垂訓です。人間は物質的な満足だけを目的として生きているのではなく、精神的に充実した満足感を得てこそ、生きていかれるものであるという意味です。残念ながら、２千年を経て進歩しない人間は、今日もなお、この言葉の意味を理解できていないようです。**

Q&A

Q：生命の科学の普及が弱いのでは？　※ここでは、よくある質問等をQ＆Aとして書いたものです。

A：残念ながら、その通りだと思います。各グループが、ホームページなどで細々と知らせているのが現状です。アダムスキーが伝えた中で、最重要と思われる「生命の科学」は、スペース・ピープルからプレゼントされたものですが、一般の人々への普及には多くの障害が伴います。本来ならば、最先端の分子生物学や量子力学等を駆使しながら、分かり易い副読本を作成することが必要なのだと思われますが、力が及んでいないのが現状なのです。

書物紹介

『 神（サムシング・グレート）と見えない世界 』 矢作直樹・村上和雄著　祥伝社新書

東京大学大学院医学系研究科教授の矢作氏と、遺伝学の世界的権威である村上氏との対談を書物にしたものです。時代もここまで来たのかと思うくらい、驚きの内容です。「神は常に私たちの体の中におられます」、「ゲノムは単なる設計図にすぎない…別に〝魂の設計図〟がある…。」、「魂こそが本当の自分であり、それに対して神が体を貸している…」、「教育現場では〝心を大切に〟と教え…魂を教えない…」等々、あの世を信じるお二人のうれしい会話が続きます。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆　５月１２日（日）、７月１３日（土）、９月１４日（土）、１１月１６日（土）、平成２６年１月１８日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

明日では遅すぎる！ 人生で、このようなことは度々あります。「生命の科学」学習会への参加も、参加できるうちにご参加を！

ＵＲＬ： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第３９号＞

発 行 日　平成２５年５月１０日

編集発行　国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任　渡 邉 克 明
（禁無断転載）

<ruby>G<rt>ジョージ</rt></ruby>・アダムスキー通信

＜第４０号＞

＜発行の趣旨＞　真実のコンタクティー（友好的な異星人との会見者）であったアメリカの故ジョージ・アダムスキー。彼が伝えた宇宙の真相と宇宙哲学を広く伝えることを目的に１９９６年、国際アダムスキー普及会を設立しました。当会では、この目的を達成することで、宇宙（宇宙の意識・友好的な異星人）と地球をつなぐ活動を推進しています。その一環として、宇宙的メッセージの発信と情報交換の場として、Ｇ・アダムスキー通信を発刊することといたしました。

冒 頭 語

他人の行動に対して度々苦言を呈する、さらに直接的な妨害や危害を加えてくる相手に対して、私たちは、〝許す〟ということができるでしょうか？

このような相手を憎むことはあっても、何時までたっても許すことなどできないでしょう。これが、地球上の一般的な生き方となっています。

しかし、日本には、〝罪を憎んで人を憎まず〟という故事があります。罪を起こす人間の心情を理解して、罪は悪いが、それを起こした人については憎まないという立派な教えです。つまり、相手のことを理解することが、許すということに繋がるということです。

自分に何らかの危害を加える人間に対して、その行動を許すというのは大変なことです。これが容易でないことから、中東における世紀を超えた紛争や、アジア地域からの日本への責任追及など、何年経っても継続しているのです。但し、国と国との場合は、様々な利害関係が絡んでいるため、単純には語れないところもあります。

許すためには、忘れるということも必要です。他人からの妨害は、一生忘れないという人もいますが、仮に事実関係を忘れないまでも、その際に受けた嫌な感情を忘れることが必要です。忘れることが、許すということに繋がるからです。

このように考えると、許すということは、〝愛〟がなくてはできないということが分かります。イエスは、つぎのように語りました。「右の頬を打たれたら、左の頬を差し出せ」、また、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と。これらは、愛の真の姿について教えているものです。

人が、憎しみや恨みを持つというのは、地球人として当然な感情でしょう。しかし、宇宙的に見ると、これらの感情は、エゴを源流とする非宇宙的なものなのです。理屈では、分かるがその種の感情を捨てきれないという人は、実際には、理解していないということなのです。

上述の感情は、最も人間的であり、誰もが少なからず持っているものです。しかし、「生命の科学」を学習する私たちは、これらの感情を克服し遺恨としないことが肝要なのです。

“言葉に注目”

＜ 転生は絶対的な事実だ。 ＞

by　アダムスキー著『 ＵＦＯの真相 』（中央アート出版社）

この言葉は、アダムスキーが転生の質問に回答した一節です。そして、「たぶんわれわれはこのことを証明できないだろう・・・。」と語っています。しかし、転生に関する出来事として、「今まで見たことのない無数の人と出会いながら、しかも相手を知っているような感じを起こすことがある。」として、「これは、過去世で出会ったことがあるからだ。」と言っています。

また、「今まで全然行ったことのない場所へ行くとする。すると突然、その場所について何かを知っているような感じを起こすことがある。」、これを空想と思うかもしれないが、アダムスキーは、「むかしのある時点へ帰って行こうとする記憶なのだ。」と語っています。

こうした記憶は、地球上で無視されてきました。しかし、アダムスキーは、こうした記憶を認めることで、記憶力が発達して来るのだと語っています。ここでの記憶力とは、一般的なものではなく、自分の真の正体を知るようになることに繋がる記憶力なのです。

「生命の科学」学習のポイントPart40

今回は、レクチャー３ 宇宙の法則の応用、第６回目“創造物を批判するな”という部分です。

まず、アダムスキーは、「人間の心は創造の過程にあるのであって、学習によって完全な現れ方の方向へ働きかけています。」と語っています。そして、永遠の中には時間がないから、時間は関係ないと言っています。

〝人間の心が創造の過程にある〟という表現は、創造主の側から見たときの言葉でしょう。そして、体験という学習を経ながら、心は、意識の働きかけにより完全な方向へ向かっているというのです。

確かに、永遠の中には時間はありません。これは、意識の世界です。しかし、物質界では時間があり、一生という間に様々なことを学ぼうと必死になっています。ここでアダムスキーが言っているのは、この一生を超えた転生する人間を想定しての時間です。

そして、「創造物のさまざまな面を研究することがわれわれの義務である・・」と語っています。しかし、冒頭に記したように、〝人間の心は創造の過程〟という成長途上にあります。このため、生命の目的を理解できず創造主を批判しているというのです。人間が、生命の目的を徹底的に研究するならば、理解が批判にとって代わると語っています。その時に、人間の英知は創造主の英知と調和するということです。

後段には、「人間は知能の海なかに生きている・・・」として、これにより生きて表現している万物は、それぞれに知能のある面を利用して創造の目的を果たしていると書いています。

宇宙に“生きる”

＜名言格言編４０＞

“ 小異を捨てて大同につく ”　これは、多少の意見の違いを無視して、重要な点では一致する意見に従うことです。しかし、細かいことばかり気にする人は、何が多少のことで、何が重要なのかが分からないようです。結果、物事が進展しなくなり争いごとに発展します。社会の中では、この辺のことが分からないと、一緒に生活ができないと知る必要があります。

Q&A

Ｑ：アダムスキー肯定者が減っている？　　※ここでは、よくある質問等をQ＆Aとして書いたものです。

Ａ：確かにそのような傾向はあると思われます。最近は、ＵＦＯについての特集番組も無いことから、アダムスキーの話題が露出しなくなっています。そもそも、アダムスキーは、この太陽系内の他の惑星に高度な文明が存在すると伝えています。ここが何より大きなハードルとなって、普及には困難を極めているのでしょう。しかし、肯定できる人だけでも、継続して活動することで、そう遠くない将来、真実が明らかになると思っています。

書物紹介

『 フリーエネルギー版　宇宙にたった１つの神様の仕組み』飯島秀行　著（株）ヒカルランド

著者の飯島氏は、ボリビアでの農業プロジェクトに参加し、実践体験により自然法則を体得したということです。書物では、「物質からエネルギーを、取り出すことはできません。何故かというと、エネルギーとは意識だからです。」、「神は宇宙に遍満するエネルギーと質量を意味し、エネルギーと質量のことを微生物と称します。」等々、独自の表現で宇宙の真理を伝えています。また、これらの思考からフリーモーターを開発したという、大変、参考になる１冊です。

学習会案内

『生命の科学』学習会。あなたをとおして“宇宙の意識”が輝きますように！

☆ 東京開催☆　７月１３日（土）、９月１４日（土）、１１月１６日（土）、平成２６年１月１８日（土）、３月１５日（土）。時間は、すべて午後１時３０分・台東区民会館（浅草寺社殿の道路東側）８階の第１会議室ほか。会場代一人５００円。当日、資料を配布します。

【編集後記】

「生命の科学」を学習すると、世界の欺瞞が見えるようになります。同時に、人間の真の生き方が分かるようになるのです。お互い精進！

ＵＲＬ： http://www7b.biglobe.ne.jp/~adamski/

Ｇ・アダムスキー通信 ＜第４０号＞

発 行 日　平成２５年７月１０日

編集発行　国際アダムスキー普及会

栃木県鹿沼市御成橋町 1-3000-1

発行責任　渡 邉 克 明　（禁無断転載）